

序論）本当のヒーローを待つ私たち

皆さん、改めましてクリスマスの挨拶をしましょう。メリークリスマス！ 今日、このようにクリスマス礼拝を皆さんと共に【主】に捧げができるのを感謝いたします。

さて、皆さんは「救世主」や「ヒーロー」と聞くと、どんな姿を想像されるでしょうか？ 映画や物語に出てくるヒーローは、たいてい、きらびやかな衣装を身にまとひ、圧倒的な力で悪を倒し、人々を熱狂させる姿で描かれます。

しかし、今から2000年前、神様がこの世界に送ってくださった「本物の救い主」は、私たちの予想を裏切る姿で現れました。それは、力強い軍隊を率いる王様ではなく、温かい宮殿に生まれたプリンスでもなく、一人の「無力な赤ちゃん」の姿でした。

今日は、エルサレムの神殿で、その赤ちゃんを腕に抱いた一人の老人、シメオンという人の物語を通して、「本当の救い主とは誰なのか、そしてそのお方は、どんなお方なのか」を共に教えられていきたいと思います。

1) どんな救い主か

まず、イエス様がどのような家庭に、どのようなお姿で現れたのか。聖書の最初の箇所（21節から24節）をお読みします。

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

2:22 そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。

2:23 それは、主の律法に「最初に胎を開く男子はみな、主のために聖別された者と呼ばれる」と書いてあるとおり、幼子を主に献げるためであった。

2:24 また、主の律法に「山鳩一つがい、あるいは家鳩のひな二羽」と言われていることにしたがって、いけにえを献げるためであった。

世の中のリーダーは人を従わせるのですが、聖書が描く救い主イエス様は、従わせる者ではなく、まず「従う者」として登場されました。

ここには、割礼や清めの期間、そして【主】に捧げる生贊のことについて書かれていますが、これは当時のユダヤ人の決まり（律法）を、ご両親が一つひとつ丁寧に守

っている様子が記されています。本来、イエス様は神様の子ですから、人間のために決められたルールに従う必要はありません。むしろ、ご自分がルールを作る立場です。それなのに、イエス様はあえて「ルールに従う一人の人間」として、この世界での歩みを始められました。それは、私たち人間と全く同じ立場に立ち、私たちの弱さを分かち合うためでした。

しかも、注目していただきたいのは 24 節です。ご両親が捧げたのは、子羊ではなく「鳩」でした。当時の決まりでは、羊を買えないほど貧しい家庭だけが、鳩で代用することが許されていました。つまり、救い主イエス様は、最も質素で、最も謙遜な、貧しい家庭の子どもとしてお生まれになったのです。

私たちの救い主は、高いところから指図する方ではありません。私たちが日々感じている生活の苦労、心の痛み、そして「自分はなんてちっぽけなんだろう」という思い。そのすべてを知るために、あえて低いところへと降りてきてくれたお方なのです。だから聖書にはこのように書かれています。

ヘブル人への手紙

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

4:16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

救い主であるイエス様は現実に、実際、私たちが歩んでいる困難の中に降りてくださいました。だから私たちは大胆に救い主であるイエス様のところに行くことができるのです。

2) だれが救い主なのか

では、この一見どこにでもいるような貧しい家庭の赤ちゃんが、どうして「世界の救い主」だと分かったのでしょうか。そこには、シメオンという一人の老人が登場します。少し長いですけども 25 節から 32 節をお読みします。

2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。

2:26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によっ

て告げられていた。

2:27 シメオンが御靈に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って來た。

2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言つた。

2:29 「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。

2:30 私の目があなたの御救いを見たからです。

2:31 あなたが万民の前に備えられた救いを。

2:32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」

シメオンは（25節表示）「イスラエルの慰め（救い主）」を待ち望んでいました。実は、旧約聖書の最後の預言書である「マラキ書」が書かれてから、イエス様がお生まれになるまで、約400年もの長い月日が流れていきました。

この400年間、神様からの新しい預言の言葉は途絶えていました。人々にとって、それは神様が沈黙してしまったかのような、暗く、希望の見えない期間でした。400年という月日は、人が神様を諦め、絶望するには十分すぎる時間です。しかし、シメオンはその沈黙の中でも、神様の約束を信じて待ち続けました。

そして、そのシメオンに、目の前の赤ちゃんが「救い主だ」と教えたのは、彼自身の能力ではありませんでした。彼の上におられた「聖靈なる神様」でした。聖靈様が彼を導き、神殿に入らせ、この幼子こそが約束の救い主だと示したのです。だから彼は神様を賛美せずにはいられませんでした。

誰が本当の救い主なのかを知るためには、この聖靈なる神様の働きが不可欠です。私（牧師）自身もそうでした。牧師の家庭に育ち、幼い頃から聖書をたくさん読んで知識はありました。でも、イエス様が「自分のための救い主だ」と心から分かったのは、高校2年生の冬のことでした。その時、聖靈なる神様が私の心に働いて、知識ではなく「この方こそが救い主だという確信」を与えてくださったのです。

では、私たちはその聖靈様が働いてくださることをじっと待つといればいいのでしょうか。同じルカの福音書の中で、イエス様は言われています。子どもメッセージの賛美の時にも歌った言葉です。

「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たた

きなさい。そうすれば開かれます。」（ルカ 11:9）主は私たちが求めるときに答えてくださるのです。そしてこの教えの結論としてイエス様は「天の父は、ご自分に求める者たちに、聖霊を与えてくださる」（11:13）と約束されています。

私たちが「神様、本当の救いを教えてください」と求め、探し、門をたたくとき、神様は必ず聖霊様を送ってくださいます。そして聖霊様は、私たちの心の目を開いて、救い主が誰なのかを教えてくださるのです。

シメオンは、その救い主を腕に抱いて叫びました。（31 節表示）この方は「万民の前に備えられた救い」であり、（32 節表示）「異邦人を照らす啓示の光」であると。

「異邦人」とは、ユダヤ人以外の人々、つまり私たち日本人も含めた世界中のすべての人々のことです。神様は、この救い主を一部の人のためだけではなく、暗闇の中で道に迷っているすべての人を照らす「共通の光」として準備してくださいました。

だから、あなたの人生はこの救い主の光によって照らされることができるのです。あなたがどこにいても、どのような人生を歩んでいても、この光はあなたを照らすために用意されています。

3) その救い主は私たちに何をもたらすのか

最後に、この光である救い主が私たちに何をもたらすのか。シメオンが語った、少し厳しい、しかし人生の本質を突いた言葉を聞いていただきたいと思います。33 節から 35 節です。

2:33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。

2:34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れたり立ち上がったりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。

2:35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」

（34 節表示）シメオンは、イエス様が「多くの人が倒れたり立ち上がったりする分岐点」になると言いました。この救い主を受け入れるか、それとも拒絶するか。それによって、その人が滅びに倒れるのか、それとも希望の中に立ち上がるのかがはつきり分かれるというのです。

さらに彼は、イエス様が「反対にあうしるし（合図）」になると預言しました。イエス様は私たちの心を照らす「光」です。明るい光が差し込むと、隠しておきたかった部屋の隅にあるゴミや汚れがはっきり見えてしまうようになってしまいます。それと同じように、イエス様の光に照らされると、私たちの心にある「欲望」や「自己中心さ」といった罪が明らかになります。だから人はそれを嫌って、光であるイエス様に反対し、拒絶するようになるのです。

実際、イエス様は後に、人々からの激しい反対を受け、十字架にかけられました。**35節の「マリアの心を刺し貫く剣」とは、まさにわが子が十字架で苦しむ姿を見守る母の痛みのことです。**

しかし、なぜ救い主はここまでして「人々の反対」を受け、十字架にかかるのでしょうか。それは、人々に反対され十字架にかけられるイエス様こそが神様の救いの目印（しるし）であったからです。だから教会のシンボルは人々に反対された象徴である十字架なわけです。

救い主イエス・キリストは、私たちの罪をすべて背負ってくださるため十字架にかかりました。それは私たちが自分の罪に倒れたままにならないよう、ご自分が「反対」と「痛み」をすべて引き受け、私たちが神様の愛によって「立ち上がる」ための道を作ってくださったのです。

2000年前の初めてのクリスマスの夜、お生まれになったこの幼子を、あなたはどう受け止めるでしょうか。世の中の人が「救い主なんていない」と反対の声を上げたとしても、聖霊様は今、あなたの心に「この方こそが、あなたを照らす光だよ」と語りかけておられます。

結論) あなたへの最高のクリスマス・プレゼント

年老いたシメオンは、腕の中の小さな赤ちゃんを抱きしめたとき、人生でこれ以上ない平安に満たされました。400年の沈黙を破って現れた救い主をこの目で見た彼は、「今こそ安らかに去らせていただけます」と「もう今死んでも構わない」というほどの平安で満たされたのです。

神様は、あなたに「平安」を与えるために、そしてあなたが罪や絶望の中から「新しく立ち上がる」ために、このイエス様を送ってくださいました。

救い主は、今もあなたの心の扉をたたいています。このお方は、あなたの人生を照らす光であり、神様からの最高のプレゼントです。「求めなさい、そうすれば与えられます」。神様は、私たちが心から救いを求めるとき、その求めに答えて聖霊なる神様の導きを与えてくださり、救い主、【主】イエス・キリストのことをよくわかるようにしてくださいます。

もう既に信じている人も、そうでない人も、この聖霊様の導きによって、このクリスマスの時、救い主なるイエス様と出会い、本当の平安をもって 2026 年を迎えることができるようになります。

お祈り)

「愛する天の神様。今日、このクリスマス礼拝に私たちを招いてくださったことを感謝します。

400 年の沈黙を破って現れたイエス様こそが、私たちすべての人を照らす光であることを今日知りました。どうぞ、今ここにいるお一人おひとりの心に聖霊様が働いてくださり、イエス様という最高のプレゼントを受け取ることができますように。私たちが自分の力で立ち上がれないとき、十字架の愛によって私たちを立たせてくださるイエス様の平安を、どうぞ今、心に注いでください。

このクリスマスの喜びが、皆様の歩みの上に豊かにありますように。
主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」